

[参考資料・リリース日本語訳]

2001年12月18日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ（スイス）が発表しました、緑内障・高眼圧症治療薬「KRG-3332」の契約締結に関するリリースの日本語訳をご参考までにお届けします。

ノバルティス ファーマ株式会社

ノバルティス ファーマ社とキッセイ薬品工業株式会社 緑内障・高眼圧症治療薬の開発でオプション契約締結

ノバルティス ファーマが緑内障治療の画期的な新薬「KRG-3332」の可能性を追求

2001年12月18日、スイス・バーゼル発 - ノバルティス ファーマ社は、キッセイ薬品工業株式会社と、緑内障・高眼圧症の画期的な治療薬について、オプション契約を締結したと発表しました。この契約により、ノバルティス ファーマ社は、前臨床試験終了後に日本と韓国を除く全世界において、独占的に「KRG-3332」を開発・販売するオプション権を取得しました。日本と韓国における共同開発と共同マーケティングについては、別途、両社で契約を結ぶことになっています。

ノバルティス ファーマ社の眼科領域事業の責任者であるルジ・フォン・ビッターは、「ノバルティスは、この契約によって、失明につながる重篤な眼疾患である緑内障の開発パイプラインを強化することができます。画期的で有効な治療薬を患者さんに提供できるように、両社の協力が成功することを期待しています。また、世界で約 6,800 万人の患者さんがいるとされる、眼科領域における最大の市場で、ノバルティスの地位をさらに強化できるものと期待しています」

KRG-3332 は、選択性の高い $1A$ 受容体遮断剤で、眼球内の房水の流出を促進させることで、緑内障患者の眼圧を下降させる効果が期待される点眼剤として開発されます。なお、薬理試験では、長期にわたっての効果が示されています。

緑内障について

緑内障は、失明の主な原因の一つで、世界で約 6,800 万人の患者がいるとされています。失明は視神経の突端が損傷されることが主な原因で起こります。緑内障の臨床的特徴は判明していますが、視神経がどのように損傷されるのか、その発生機序は解明されていません。緑内障における視野障害は不可逆的なため、早期発見、早期治療が非常に重要です。

上記の発表には、現時点での将来への予想と期待が一部含まれております。従って、その内容に関しては、また将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる可能性があることをご了解ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けております Form 20-F をご参照ください。

ノバルティスは、医薬品、コンシューマーヘルス、ジェネリック、アイケア、動物薬を事業の柱とする、ヘルスケアにおける世界的リーダーで、ニューヨーク証券取引所に上場しています。ノバルティス グループの継続する事業の 2000 年度の売り上げは 291 億スイスフラン（約 1 兆 8,600 億円）、研究開発には約 40 億スイスフラン（2,600 億円）を投資しています。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約 70,000 人の社員を擁し、世界 140 カ国以上で事業を行っています。詳細は、<http://www.novartis.com> をご覧ください。